

# 群馬・薬師遺跡

- 1 所在地 群馬県藤岡市鮎川字薬師
- 2 調査期間 一九九六年(平8)三月～十一月
- 3 発掘機関 藤岡市教育委員会・山武考古学研究所
- 4 調査担当者 志村 哲・長谷川 一郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・平安時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(高崎)

薬師遺跡は藤岡市街地の南西約四kmに位置し、藤岡台地の扇頂部付近にあたる。調査区は幅二四m長さ五〇mで、北側は東西に走る伝鎌倉街道に接している。調査の結果、幅約七mで両側に側溝をもつ鎌倉街道と考えられる道路遺構、及びこれに直交する土橋状の入口をもつ長辺約六〇m短辺約三五mの方形区画を確認した。この区画は三重の溝に囲まれ、一辺二〇・四m

の中央区画内からは、井戸一基、火葬跡や土壇墓四六基などの墓地、掘立柱建物二五棟など、中世を主体とする多数の遺構を検出した。この他、平安時代の住居跡五軒も確認している。

今回報告する柿経は、この区画内の井戸底面の湧水付近から約四〇〇点出土した。井戸は長径四・七m短径四・二m深さ三・六mで、柿経以外では、人骨や「暦応」(一一三三・一一三四)銘の板碑、「文明五年」(一一七三)銘の五輪塔、常滑甕、内耳鍋、火鉢、播り鉢、瓦、石臼、木製の櫛・柱材、モモ・スモモ・センダンの種子など、多数の遺物が多量の礫に混じって出土している。

柿経は幅一・四cmの極めて薄い木片に書かれている。墨書は漢字と梵字に大別され、前者が経文、後者が種子と考えられる。経文は断片的ではあるが、共通した文言が多くみられ、理趣経の文言を確認している。両面写経である点、群馬県吾妻郡草津町白根山湯釜の事例に幅・字配り・木取りなどが類似している点から、一四世紀から一五世紀に位置付けられる柿経である。ここではまとまった文言の確認できた代表的なもののみを紹介する。

## 8 木簡の釈文・内容

- (1) 輪般若理趣所謂金剛平等則 ☐ (89)×14×0.5 081
- (2) 輸入義平等則入大菩薩 ☐ (68)×14×0.5 081

(3) 特薄伽梵一切如来入大輪如来 (93)×14×0.5 081

(4) 平等則入如法輪入一切葉平等 (86)×14×0.5 081

(5) □入一切法 (26)×13×0.5 081

(1) (5)は理趣經を墨書した柿經である。このほか、「一切平等」「理趣」「金剛印」「雜密」「一切如来」などの断片的な経文がある。なお、釈読にあたっては東京国立博物館の時枝務氏のご教示を得た。

## 9 関係文献

藤岡市教育委員会『F二八a 東平井中道B遺跡 F二八b 薬師遺

跡』(一九九八年) (志村 哲)

輪般若經城(照)謂金剛王若則

(1)

輪入義平生若則入不生焉

(2)

入一切法

(5)

特薄伽梵一切如来入大輪如

(3)

平若則入如法輪入一切葉平等

(4)

## 木簡研究 第二三号

巻頭言—木簡学会の原点—

二〇〇〇年出土の木簡

鎌田 元一

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊七坪 藤原京跡十一条・朱雀大路

酒船石遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 平安京跡左京三条一坊十町 平安

京跡左京六条三坊六町 御室仁和寺 大坂城跡 中之島三丁目所在遺跡

(鳥取藩蔵屋敷跡) 広島藩大坂蔵屋敷跡 加美遺跡 堺環濠都市遺跡

深江北町遺跡 行幸町遺跡 柴遺跡 辻子遺跡 幅下遺跡 中村遺跡 春

岡遺跡群 大坪遺跡 若宮大路周辺遺跡群 北条小町邸跡 北条泰時・時

頼邸跡 汐留遺跡 大崎城跡 蜂屋遺跡 新宮神社遺跡 柿田遺跡 荒井

猫田遺跡 中野高柳遺跡 洞ノ口遺跡 仙台城本丸跡 市川橋遺跡 赤井

遺跡 柳之御所遺跡 馳上遺跡 石田遺跡 山形城跡 本町一丁目遺跡

安江町遺跡 打木東遺跡 畝田ナベタ遺跡 加茂遺跡 吉田C遺跡 美麻

奈比古神社前遺跡 麻生谷遺跡 下ノ西遺跡 腰廻遺跡 蔵ノ坪遺跡 船

戸桜田遺跡 西川津遺跡 尾道遺跡 周防国府跡 観音寺遺跡 中前川町

二丁目遺跡 井相田C遺跡 元岡・桑原遺跡 彼岸田遺跡 沖城跡(1) 沖

城跡(2) 上高橋高田遺跡 白藤遺跡群

一九七七年以前出土の木簡 (一三)

平城宮跡 (七七次)

積文の訂正と追加 (四)

平城京跡左京一条三坊十三坪 (二三号) 大猿田遺跡 (一九号) 荒井猫

田遺跡 (二二号) 東木津遺跡 (二二号) 下ノ西遺跡 (二二号)

七世紀木簡の国語史的意義

飛鳥池木簡の再検討

新刊紹介 V・L・ヤーニン著 (松木栄三・三浦清美訳)

『白樺の手紙を送りました—ロシア中世都市の歴史と日常生活—渡辺晃宏

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円